

研究課題名	上部消化管 X 線撮影における異常所見検出システムの開発
研究の意義・目的	上部消化管 X 線撮影は、一般的に「バリウム検査」と呼ばれ、主に胃がんを早期に発見するための検査です。バリウムを飲み、検査中はげっぷを我慢しながらたくさん身体を動かす大変な検査ですが、毎年多くの方々がこの検査を受けてくださっています。撮影された大量の画像から胃がんを探す作業は専門の医師が行いますが、この作業を人工知能が支援することができれば、胃がんの見落としを少なくすることが可能です。この研究では人工知能を使用して、上部消化管 X 線画像から胃の異常を検出するシステムの開発を目的とします。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2025 年 4 月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2014 年 4 月 1 日～2025 年 4 月 1 日の期間に MedCity21 において上部消化管 X 線撮影を行った方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報：【年齢、性別、診断名、X 線画像、撮影条件】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院のみで行います。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	研究責任者：大阪市立大学医学部附属病院 先端予防医療部 MedCity21 太田雪乃
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学医学部附属病院 先端予防医療部 MedCity21 (担当者氏名) 太田雪乃 電話番号：(06) 6624-4010 メールアドレス：ohta.yukino@med.osaka-cu.ac.jp